

スターウェイ株式会社¹

竹本氏はじっくりと物事を考え続ける研究者のような第一印象を与えるが、実は浮き沈みの激しいベンチャー企業の社長である。

10 スターウェイ株式会社（以後スターウェイ）は、環境ソリューション・プロバイダを標榜し、「環境に優しく、しかも経済効果を出せるように物流を機能させるため、スターウェイのもつ技術やノウハウを企業にアドバイスする」²というビジネスを行っている。竹本社長の環境に対する思いからスターウェイを創業し、紆余曲折の8年が経過した。

落ち着きがあり折り目正しい口調で話す竹本社長は、すらりとした体格の48歳。穏やかな雰囲気の中、話しを聞いている人は、無意識のうちに竹本社長のペースに引き込まれていく。相手の言葉を否定せずに受け入れていく竹本社長の姿勢は、相手の共感や理解を得やすくする。しかし、実際のところビジネスに対してはものすごく挑戦的であり、論理的思考を持ち、「ビジネスの成功要因はシナリオをいかに作るか」と言い切るところは、やはりベンチャー企業の社長の顔をのぞかせる。

20

地球温暖化現象³

30 竹本社長が「環境」に対して意識したのは、「地球温暖化」が騒がれ始めたころである。地球は太陽のエネルギーで温められ、温められた熱の一部が宇宙に放出される。大気中の二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスは、この熱を吸収し、再び地表に戻している。そのおかげで地球の平均気温は15℃と、生物が生きるのに適した環境が保たれている。しかし、18世紀の産業革命以降、人間は石油や石炭などの化学燃料を大量に燃やして使用することで、大量の二酸化炭素を排出するようになった。このように、温室効果ガスが大量に増えると、大気中の熱が宇宙に放出されにくくなり、地球の気温が上昇することを、地球温暖化と言う。

¹ 本ケースはスターウェイ株式会社の協力を得て、独立行政法人中小企業基盤整備機構 経営支援情報センターの笠原一絵リサーチャーが、武蔵大学経済学部教授・高橋徳行のアドバイスを受けて執筆し、同センター鈴木直志統括ディレクターと宮下典子ディレクターの意見を参考に作成したものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示をすることを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2008年3月）

² 東レ経営研究所「シリーズ製造業の現場は今 日本のものづくりの底力を問う」P118

³ 「STOP THE 温暖化 環境省 2005」と「平成19年版こども環境白書」より